

MUSIC TOWN

Miyuki Nakajima Special Issue



中島みゆき

MUSIC TOWN Special Issue

Take Free

SHINSEIDO www.shinseido.co.jp



中島みゆき

ニュー・アルバム

ララバイSINGER

2006. 11. 22 IN STORE 株式会社ヤマハミュージックコミュニケーションズ

- ① 桜ららら ② ただ・愛のためにだけ ③ 宙船(そらふね) ④ あのさよならにさよならを
⑤ Clavis 一鍵一 ⑥ 水 ⑦ あなたでなければ ⑧ 五月の陽ざし ⑨ ところ ⑩ お月さま
ほしい ⑪ 重き荷を負いて ⑫ ララバイSINGER

全12曲収録 全曲 作詞・作曲: 中島みゆき 編曲: 瀬尾一三
YCCW-10030 定価3,150円(税別価格3,000円)

新星堂オリジナル特典: オリジナル・ポストカード

中島みゆき自身の中にあり、またファンが求める“中島みゆきの王道”が素直に表現され、原点を再発見したアルバム。書き下ろしの新作オリジナル・アルバムとしては「恋文」(2003年11月19日発売)以来、約3年ぶりとなる作品(通算34作目)。

—「ララバイSINGER」は、中島みゆきが原点を再発見した作品とありますが。

「初心に戻ってということ、はい」

—ということは今回その気はあったんですか?

「『ララバイSINGER』がデビュー曲の『アザミ嬢のララバイ』の一節を使っているんでね。まあ、久々のオリジナル・アルバムとも言われるんですけど、『夜会』の曲だってオリジナルだわい、とは思ってるんですけどね。まあ、久々の新作ということですね」

—「アザミ嬢のララバイ」からなにかを派生させようという意図はあったんですか?

「うん、このタイミングでこういうのをやろうというのはあったんで、軸として『ララバイSINGER』を置いたというのはありますね。このところ『夜会』とかいろいろやっていて、あっち飛び、こっち飛びしてるんでね、ちょっと正気に戻す、ということもあって」

—それって必要なんですか?

「あのね、来年がツアーなんです。コンサート向けに言ったら変ですけどね、ツアーにもっていく曲もちょっと新しいのを出しておきたいね、と」

—みゆきさんは、ツアーで新しい曲やってみましたっけ。ああ、やりますね。

「けっこうやってるんですよ、わたしは。けっこうマジメにやりますよ、アハハ。『夜会』の反対方向っていうか、別な方に振り子が揺れると、ストーリーのない、まるまん中島みゆきみたいなコンサートの方に振り子が行きそうになるんですよ。で、中島ですけど、それがなにか、みたいなコンサートをやろうと考えると、まあこういう曲でしょうか、っていうことでしょうかね」

—でも、そういう曲は「夜会」のための曲と同時並行でできていくものなんですか?

「入り混じってますね。『夜会』の、それこそアカリさんの曲を書いているときに、なんかちがう、みたいなことで、こっちにぱっと行ってたりとかね。まあ言い方が違うだけなんですけどね。『夜会』では遠回しに言うとかあるだけだわ、ひねりの世界で。ひねらないで直球を投げるとこんなになっちゃうっていうことじゃないでしょうかね」

—果たしてこれが直球か、というのがあります。

「アハハ、まあ意地悪ね。本人は直球のつもりなんですけどねえ。時々テニスボールなんかもごきますけど。でも、狙ってはいないのよ。いちおう親切に投げてるんですけどね」

—だから、聴いている方が油断できない。

「いや、だからね、ララバイSINGERってつけちゃった以

上は、全編よく眠れるような曲ばかりにしようかなとも思ったんですよ、あの、手守歌アルバムみたいな。あ、いいかも、皆さん疲れてるし、って思ったんですけどね。そうとばかりも限らなかったのはコントロールの悪さで、アハハ。けっこう行き当たりばったりの感じでしょ」

—え、どこが行き当たりばったりなんですか?

「アルバム一枚でワンストーリーじゃないですからね。わりとばらけていますよ」

—でも、このアルバムだけを見るとたしかにそうですね、中島みゆきの流れのなかに置けば、ちゃんとはまるんですよ。それは聴く人がいろんなところにはめればよいということなんですけど。そのへんは聴く方の楽しみですから。

「最初の『桜ららら』は、デビューして間もなくの曲なんです。ちょっと前に、テレビ東京ミュージックの今の社長さんから突然ビデオが届いて、自分のお父さんが出たインタビュー番組があって、それを見たら、なんとあなたが歌ってます。でも、この曲はまだ発表していないですよ、って。あれ、そんな仕事をしたかなあとと思って見たら、番組の冒頭で本当にわたしが歌ってる。そしてその歌が終わると同時に話し始めるみたいなインタビュー番組だったんです」

—生タイトルソングですね。

「そういうえ、そういうこともあったなあって。それは、デビューアルバム用に準備していたけれどワンコースしかなくて入らなかった曲のひとつだったんです。それをビデオを見ながら採譜して、アレンジ直して、ここに入れたんです」

—ご本人はその曲は覚えてなかったんですか?

「覚えているんだけど、符点の位置とか、細かいところの歌い出しはどっちだったっけな、これって三連だったっけ、弾むんだっけとか、休符はなにをつけたっけ、みたいなことをしつこく見直して、採譜をして。その時は自分のギターだけだったんで、今回も自分のギターから始めて、メンバーがサーッと来るって。前はお金がなかったんでメンバーは居なかったんですけどね。あ、弾き語りっていうんですね、アハハ。でも、昔のデビューの頃に引き戻す、ということではこれはいいんじゃない、っていう感じだね」

—でも、聴いている方は言われなければわからないですよな。

「はい、そうなんです。へへへ、仕掛けがあるの。『時代 -Time goes around-』っていうアルバムを作ったときに、世界歌謡祭で坂本九さんとジュディ・オングさん

が紹介して、一節歌い始めたところをそのまま使っているの演奏にすり替えましたよな。ああいう気持ちに近いのかも。ホントに、デビューアルバムのためにあった曲から始まるっていうのは。でも、こうしてみると、人間、あまり言うことは変わらないもんだなっていう」

—2曲目から4曲、他の人が歌った曲が並んでいますね。

「いや、聞き覚えのある曲は、先に置いて馴染みやすく。聴いたことのない曲がいきなり来るよりは聴きやすいでしょ、聴きやすい?」

—でも、こんなふうにはドンと固めてしまうのは大胆ですよな。

「そうですね、なにも考えてないんだないつ、って感じがするでしょ。いやあ、ぜんぜん考えないの、いっぱい考えたの、結局、あんまり差はなかったりするんですよ。まるで私の人生のようじゃありませんか」

—いやいや。でも、昔だったらたぶん、こういうことをなさんと、もう少し時間を空けてからやるのかなという気がしてんですけど。今回はほぼ同時進行じゃないですか。このあたりの意図は?

「それはたぶんね、曲をお渡しした段階で、自分はそういうふうには歌わないよ、っていうのがもう明確にわかってたから出せたんだと思う。少なくとも、今回新しく歌っていた方々に関しては、デモテープを渡すときに、わたしの声で入れてほしいの。自分の歌い方を判断して歌える人たちだから、あえて私は歌わずに、うちのコーラスをやってくれているスタジオミュージシャンの人たちにクセをつけずに歌ってもらって、好きなように歌ってくださって渡しているのね。そうすると向こうから出てきた段階で、おっ、こうなんです、わたしはそうは歌わないけども、どうぞ!っていうのがあるんで、すぐに出しやすい準備はその段階であったと思いますね。あちらにも言ってるあるしね、うちも入れますよ、アルバムにって」

—「宙船(そらふね)」みたいに、男がみゆきさんの曲を歌って、今までにもありますけど、わりと珍しいですよな。「そうなんです、わたしデモ録るときに女性のボーカルをオーダーしておいて、次の日に、すみません正気で考えたら男の歌でして、男のシンガーに替えてもらったり。話が最初、信じられなくて、人違いじゃないですか? TOKIOですよ、俺? みたいな感じで。プロデューサーの方がそういう発想をなさったのが、見事に当たったんでしょけれどね。TOKIOさん、本当にそれでいいんでしょうか。長瀬さん、ホントはいいじゃない



いですか?みたいな。でも、聴いたら、ぼちちで、かっこよかったですけどね」

—他の方のテイクというのは、中島さんが歌うときに、なんらかの影響はあるんですか?

「一度、表に出てしまうとね、お客さんは、その通りに歌わないとあれ、間違ったのかなって聞こえるだろうな、っていうのはありますけどもね。まあいいやと割り切っちゃってます。けっこうありますからね、アラ違うみたいなのが。でも、それはこう歌って欲しいということじゃなくて、わたしはこうの方が歌いやすいっていうことなんで、まあいいかと」

—「水」からの中盤後半というのがまた雰囲気の違いがありますね。

「はい、そのへんになったら、中島、勝手にさせていただきます、っていう世界でね」

—いかにも中島みゆきのなって、昔は恨み節とかいろいろ言われていましたけど

「失恋の歌のどちらかこうやらね。まあそれはそれでね、そういう切り口もいいんですけど、いまの切り口で考えたときに、やっぱりわたしの仕事っていうのは、安らかに

に眠っていただくことかな、みたいなことで」

—もう起きなくていいよ、って言う話ですか?

「いや、起きなくていいよじゃなくて。明日の活力のために寝るんですよ、人間は!ハハハ。そう考えたら、このアルバムよく眠れません?どの曲を聴いても」

—うーん、夢は見そうですね。

「まあ、寝起きの悪い人もいるでしょうけどね」

—でも、バラエティがあるけれど、それぞれの曲が言っていることはストレートですね。

「だと思っ、ひねってない。ホントひねってないと思います。ある意味、開けっぴろげだよね」

—「あなたでなければ」みたいな曲っていうのはね。以前だったら、もっと小道具を使ったりしていたと思うんですけど、スコーンとやってしまってますね。

「そうね。このアルバムには、いままでこっ恥ずかしくて出さなかったようなストレートっていうのがけっこうあると思いますよ。だんだん恥知らずになったんだ、わたし。もってまわって何遍言ったってわかってくんないんだもん、男は。ストレートに言わないと伝わらない。もう鈍感なんだから」

—このくらいちゃんと言わないと伝わらないでしょうかね。結局、もってまわった歌って、なにを言っているのかわからなかったりするし。でも、本当に「あなたでなければ」と思い切れるかどうかっていうのは決心がいきますよね。本人も本当にいいんだろうか、と思うわけじゃないですか。

「そうなの、そうなの。これを今言っちゃって、明日、気が変わったらしようかな。みたいなのもありがちなんですけどね。明日気が変わったら、気が変わったって言えばいいんだ、と思ってね」

—はい。とにかく言ってみないと始まらないんですね。

「うん」

—レコーディングはこの間と同じようなやり方ですか?

「そうです。ロサンゼルスで録音してます。ドラムがちよっと新しい人とか、曲調によってプレイヤーを分けてますけど、基本的な人たちは同じです。彼らもね、今度はどんな曲が来るかって、けっこう楽しみにしているんです」

—アメリカのプレイヤーには、どの曲が受けてましたか?

「人によってかな。けっこうバラけてましたね。でも、覚えが早いから、彼らは。一回譜面をあたったら、次には歌ってますからね。「あなたでなければ」は、総じてロサンゼルス系の人たちはノリがいい感じはありましたね」

—あの曲、いいですけども、男前な感じでしたし。

「ハハ、ダメなのよ、それじゃあ。男前じゃあ男が来ないのよ、ハハハ」

—えっ、そういう歌なんじゃないんですか?

「ハハハ、やっぱりダメか今回も」

(Interview & Text: 前田祥文)





① 私の声が聞こえますか
あぶな坂/あたのやさしい雨/信じられない頃に/ボギー・ボビーの赤いバラ/海上/アザミ嬢のララバイ/踊り明かそう/ひとり遊び/悲しいことはいつもある/歌をあなたに/渚便り/時代
CD:YCCW-00004 (1976年4月25日)



② みんな去ってしまっただ
雨が空を捨てる日は/彼女の生き方/トラックに乗せて/流浪(さすらい)の詩(うた)/真直(まっすぐ)な線/五才(いつつ)の頃/冬を待つ季節/夜風の中から/03時/うそつきが好きよ/顔(か)にいてる訳じゃないけれど/忘れられるものならば
CD:YCCW-00005 (1976年10月25日)



③ あ・り・が・と・う
福路/店の名はライブ/まつりばやし/女なんてものに/朝焼け/ホームにて/勝手にしやがれ/サーチライト/時は流れて
CD:YCCW-00006 (1977年6月25日)



④ 愛していると言ってくれ
「元気ですか」/怜子/わかれうた/海鳴り/化粧/ミルク32/あほう鳥/おまえの家/世情
CD:YCCW-00007 (1978年4月10日)



⑤ 親愛なる者へ
裸足で走れ/タクシードライバー/泥海の中から/信じ難いもの/根雪(ねゆき)/片想/ダイヤル117/小石のように/狼になりにたい/断崖/親愛なる者へ
CD:YCCW-00008 (1979年3月21日)



⑥ おかえりなさい
あばよ/髪/サヨナラを伝えて/しあわせ芝居/雨.../この空を飛べたら/世迷い言/ルージュ/追いかけてヨコハマ/強がりはよせヨ
CD:YCCW-00009 (1979年11月21日)



⑦ 生きていてもいいですか
うらみ/ます/泣きたい夜に/キツネ狩りの歌/蕎麦屋/船を出すのなら九月/～インストゥルメンタル/エレーン/異国
CD:YCCW-00010 (1980年4月5日)



⑧ 臨月
あした天気になれ/あなたが海を見ているうちに/あわせ鏡/ひとり上手/雪/バス通り/友情/成人時代/夜曲
CD:YCCW-00011 (1981年3月5日)



⑨ 寒水魚
悪女/傾斜/鳥になって/捨てるほどの愛でいいから/B.G.M./家出/時刻表/砂の船/歌姫
CD:YCCW-00012 (1982年3月21日)



⑩ 予感
この世に二人だけ/夏土産/髪を洗う女/はいはいどくおふくざい/誰のせいでもない雨が/緑/テキーラを飲みまして/金魚/ファイア!
CD:YCCW-00013 (1983年3月5日)



⑪ はじめまして
僕は青い鳥/幸福論/ひとり/生まれた時から/彼女によろしく/不良/シニカル・ムーン/春までなんぼ/僕たちの将来/はじめまして
CD:YCCW-00014 (1984年10月24日)



⑫ 御色なおし
ひとりばっかで踊らせて/すずめ/最愛/さよならの鐘/海と宝石/カム・フラージュ/種草/美貌の都/かもめはかもめ
CD:YCCW-00015 (1985年4月17日)



⑬ miss M.
極楽通りへいらっしやい/あしたバーボンハウスで/熱病/それ以上言わないで/孤独の肖像/月の赤ん坊/忘れていけない/ショウ・タム・ノ/ノスタルジア/肩に降る雨
CD:YCCW-00016 (1985年11月7日)



⑭ 36.5℃
あたいの夏休み/最悪/F.O./毒をんな/シーサイド・コーポラス/やまねこ/HALF/見返り美人/白鳥の歌が聴こえる
CD:YCCW-00017 (1986年11月12日)



⑮ 中島みゆき
湾岸24時/御機嫌如何/土用波/泥は降りしきる/ミュージシャン/黄色い犬/仮面/クレンジング クリーム/ローリング
CD:YCCW-00018 (1988年3月16日)



⑯ グッバイガール
野ウサギのように/ふらふら/MEGAMI/気にしないで/十二月/たとえ世界が空から落ちてても/愛よりも/涙-Made in tears-/吹雪
CD:YCCW-00019 (1988年11月16日)



⑰ 回帰熱
黄砂に吹かれて/肩幅の未来/あり、か/群衆/ロニー カナリア/くらやみ乙女/儀式(セレモニ)/未完成/春なのに
CD:YCCW-00020 (1989年11月15日)



⑱ 夜を往け
夜を往(ゆ)け/ふたつの炎/3分後に捨ててもいい/あした/新曽根崎心中/君の昔を/遠雷/ふたりは/北の国の罨(い) with
CD:YCCW-00021 (1990年6月13日)



⑲ 歌てか言えない
C.Q./おだやかな時代/トーキョー迷子/Maybe/渚へ/永久欠番/笑ってよエンジェル/た・わ・わ/サッポロSNOWY/南三条/炎と水
CD:YCCW-00022 (1991年10月23日)



⑳ EAST ASIA
EAST ASIA/やびい恋/浅い眠り/萩野原/誕生/此処じゃない何処かへ/妹じゃあるまいし/二隻(ふたつ)の舟/糸
CD:YCCW-00023 (1992年10月7日)



㉑ 時代-Time goes around-
時代/風の姿/ローリング/あどけない話/夢みる勇氣(ちから)/あした時々おもうの/流浪(さすらい)の詩(うた)/雨月の使者/痛哭/孤独の肖像 1st./かもめの歌
CD:YCCW-00024 (1993年10月21日)



㉒ LOVE OR NOTHING
空と君のあいだに/もう枝橋に灯りは点らない/バラ色の未来/ひまわり/SUNWARD/アンテナの街/てんびん秤/流星/夢だっただね/風にならないか/YOU NEVER NEED ME/眠らないで
CD:YCCW-00025 (1994年10月21日)



㉓ 10 WINGS
二隻(ふたつ)の舟/思い出させてあげる/泣かないでアマテラス/Maybe/ふたりは/DIAMOND CAGE-I love him/子守歌/生きてゆくおまえ/人待ち歌
CD:YCCW-00026 (1995年10月20日)



㉔ パラダイス・カフェ
旅人のうた(2nd Version)/伝説/永遠の嘘をついてくれ/ALONE PLEASE/それは愛ではない/なつかない猫/SINGLES BAR/昔い時代/たかか愛/阿樫の木の下で/パラダイス・カフェ
CD:YCCW-00027 (1996年10月18日)



㉕ わたしの子供になりなさい
わたしの子供になりなさい/下町の上、山の手の下/命の別名/清流/私たちは春の中で/愛情物語/You don't know/木曜日の夜/虹灯の海/4.2.3
CD:YCCW-00028 (1998年3月18日)



㉖ 日-WINGS
竹の歌/NEVER CRY OVER SPLIT MILK/いつか夢の中へ/羊の言葉/異国の女/あなたの言葉がわからない/難破船/知人・友人・愛人・家人/Good Morning, Ms. Castaway/明日は我等
CD:YCCW-00031 (1999年11月3日)



㉗ 月-WINGS
1人で生まれて来たのだから/紅い河/LAST SCENE/女という商売/SMILE, SMILE/PAIN/白菊/時効/愛から遠く離れて
CD:YCCW-00032 (1999年11月3日)



㉘ 短篇集
地上の星/帰省/夢の通り道を僕は歩いている/後悔/MERRY-GO-ROUND/天使の階段/過ぎゆく夏/結婚/粉雪は忘れ薬/Tell Me, Sister/ヘッドライト・テールライト
CD:YCCW-00002 (2000年11月16日)



㉙ 心守歌
囁く雨/相席/樹高千丈 落葉掃根/あつたね/心守歌/六花/カーニヴァルだったね/ツンドラ・パード/夜行/月迎え/LOVERS ONLY
CD:YCCW-00029 (2001年9月19日)



㉚ おとぎばなし-Fairy Ring-
陽射し唄/シャングリ/おとぎばなし/雪・月・花/匂いガラス-安寿子の靴/あの人に似ている/みにくいあひるの子/愛される花 愛されぬ花/裸爪(はだしのライオン)
CD:YCCW-00039 (2002年10月23日)



㉛ 恋文
銀の龍の背に乗って/恋とはかぎらない/川風/ミラージュ・ホテル/寄り添う風/情痴の証言/ナイクキップ・スベシキル/月夜同舟(げつやどうしゅう)/恋文/思い出だけではつらすぎる
CD:YCCW-00044 (2003年11月19日)



㉜ いまのきもち
あぶな坂/わかれうた/怜子/信じ難いもの/この空を飛べたら/あわせ鏡/歌姫/傾斜/横恋慕/この世に二人だけ/はじめまして/どこにいても/土用波
CD:YCCW-10010 (2004年11月17日)



㉝ 中島みゆきライブ! (SA-CDハイブリッド盤) Live at Sony Pictures Studios in L.A.
この空を飛べたら/地上の星/土用波/銀の龍の背に乗って/この世に二人だけ/夜行/歌姫
CD:YCCW-10014 (2005年3月23日)



㉞ 転生
遺失物預り所/帰れない者たちへ/線路の外の風景/メロウスの帯はねじれる/フォーチュン・クッキー/闇夜のテーブル/我が祖国は風の彼方/命のリレー/ミラージュ・ホテル/サーモン・ダンス/無限軌道
CD:YCCW-10017 (2005年11月16日)

【企画アルバム】



● 大吟醸
空と君のあいだに(シングル・バージョン)/悪女/あした/最後の女神/浅い眠り/ルージュ/誕生/時代/わかれうた/ひとり上手/痛哭/狼になりにたい/旅人のうた/ファイア!
CD:YCCW-00034 (1996年3月21日)



● Singles
Disc 1 やまねこ/シーサイド・コーポラス/見返り美人/どこにいても/あたいの夏休み/噂/つめたい別れ/ショウタム/孤独の肖像/100人目の恋人/ひとり海と宝石
Disc 2 ああ娘/波の上/横恋慕/忘れな草も一度/誘惑/やさしい女/悪女/笑わせるじゃないか/あした天気になれ/香村から/ひとり上手/悲しみに/かなしみ笑い/霧に走る
Disc 3 りばいばる/ピエロ/おもうで河/ほうせんか/わかれうた/ホームにて/夜風の中から/忘れられるものならば/こんばんわ/強い風はいつも/時代/傷ついた翼/アザミ嬢のララバイ/さよなら
CD:YCCW-10002~4 (3枚組) (1987年8月21日)



● SinglesII
Disc 1 時代/最後の女神/ジュラシー・ジュラシー/兆しのシーズン/浅い眠り/親愛なる者へ/誕生/Maybe/トーキョー迷子/見返り美人(2nd Version)
Disc 2 with/笑ってよエンジェル/あした/グッバイガール/涙-Made in tears-/空港日誌/仮面/熱病(2nd Version)/御機嫌如何/シュガー
CD:YCCW-10005~6 (2枚組) (1994年4月21日)



● Singles 2000
地上の星/ヘッドライト・テールライト/騎さもせず/私たちは春の中で/命の別名/糸/愛情物語/幸せ/たかか愛/目を開けて最初に君を見た/旅人のうた/SE・TSU・NA・KU・TE/空と君のあいだに/ファイア!
CD:YCCW-00037 (2002年4月17日)



● 元気ですか
糸/狼になりにたい/時代/化粧/空と君のあいだに/「元気ですか」/アザミ嬢のララバイ/世情/ファイア!/後悔/ヘッドライト・テールライト/恋文
CD:YCCW-10026 (2006年6月14日)

*このディスコグラフィにはヤマハミュージックコミュニケーションズから発売されているアルバムのみを掲載しています。